

小まづひくおしぢんとりち〜まき〜まけ〜相勝
 む掛りの屋〜んを中 証定事行を集〜ゆ〜ち
 小〜ん工而を移つ〜ら〜りつ〜ま〜ぬた〜
 けてさふちるりやを肥田志願〜よ〜ウイ〜

奏 萬金譜
 亥

- 武士百姓のい〜みお〜
- 諸藩の請之に〜 他諸藩の用少〜つ〜
- 徳堂社力のい〜みお〜
- 上〜通〜り〜の〜い〜みお〜 身少〜り〜き時〜は〜い〜ニ〜あ

了用少〜り〜い切神の〜
 一世間のい〜みお〜湯の〜用ハ祝の存少〜り〜事もち〜が
 の意の〜り〜用少〜り〜
 十業一ヶ月或三月用少〜り〜忠誠忽ち減〜肝柔を悉く
 盡ん小少のい〜みお〜也

小まづ新主人歌

大平樂

大平工井つ〜も年の元戎堀回〜り〜け〜西候約〜
 いや〜は〜い〜も〜心〜月〜と〜つ〜〜〜
 小まづ新主人歌

ありやアさす小人をさす一だの業居る一だの旗登たりしを
をつくる牧野目を見ちやア漁りちんのふせ成り如定ふ入る大
海懐而我んるやして人のふらの定れせ之のいせし一て二
刻るうがわつ一ふおづつきめ版布一やアのるあ一その位
なうこのあめの一え武刻るうに後い井伊をふ一たう
世間中か肥田る一といつ一わふが豊後か一我かるや一に
りちまつるさめりお事さうよまぶるをんを比その斗
出せ一と断人つるがさきくおると武士の平蜘蛛あるアザん
の事一い福い百鬼柳生といよとん一たうよてん没人の人人生
か曲則とさるるわらわのりのがみんを扇くまを夜を一とい一

らアどぞおぎやア道にのむね危丁さうさぎても出あう人い
せんまおなんともいぬく一と有回事もなふ事一も志やをりち
らう一と一トタ一の事ア短夜もかまら初くおれは毎いど
かさ一教ぶめと田畑をいの大風じやアのるあ一いばい
あやうらうらかい名いあうりん一やア初くおらう根存
る一つ一首をかり一水回ら一とく一世方の事う忘れ
るそのあうなんごもて之の回一水野うらや一小田橋をい
うら一やアが徳村アわ一づつ初くを庫初くをう一いらい
いままう一かまやなめ田如定いおは法大師の田代事だめ
細戸のがいのとむさうにつめるが田善清方アおれは金か

かーかア見附の石垣ふをりてつらつをまきどかつらんり奥向
どやア女まうふ我たして折るアあふう細工の流くは上ケ
を巾着中あといふどろろつがせりやアまけりーみどいな
んどろ知る秘か申るわの儀もや巾着人をむ巾着紙の
やうにこりて我と安くつらついでやアかつしましお儀と
かりあへは戸のふをまうろーい屋どろつあふろろちつと物の
こらうい男どアーつづも秘

三 礼 儀

三 倉 師 巾 着 附 巾 着 の 載

ぬだんふさうろま武士の曲美小満用のを折ら小豆の何やまうち

こらうちやー望園の常席の肝もつとくだきりく人の非
及多まは高ろろろまうせやと納の時希も今つく福よ
海まーー是非ろろま人の不納の利金をけのよまーは
あひひみりー大合利金の初びんか備ホうあや返や同の
まろー言金の初へ入まらねて鼻かろろまだに武士
送りびあえとあき没布の折ひまいしひあきまうまあまとい
あねやる人の人とまひ納く屍の場ふーをまーりり
りくせまふまろー

我ははせわさあき言のせのほろろぬろろろを返す男ハ